6. 大規模噴煙柱 4600m? 2018.7.16_15:38

6-1. Bからの撮影と前後のK,Tの定時撮影

気象台のリストでは、噴煙高度4600m、南岳火口から流向Wとある。最盛期と見られる爆発噴煙柱のBからの写真1,2と、その14分後のK, Tの定時写真を挙げる。そのWebCamのパラメータ設定のために爆発前の快晴シーンも見る。



B1 <u>154607e</u> e= Olympus μ-40



B2 <u>154657e</u>







K 16



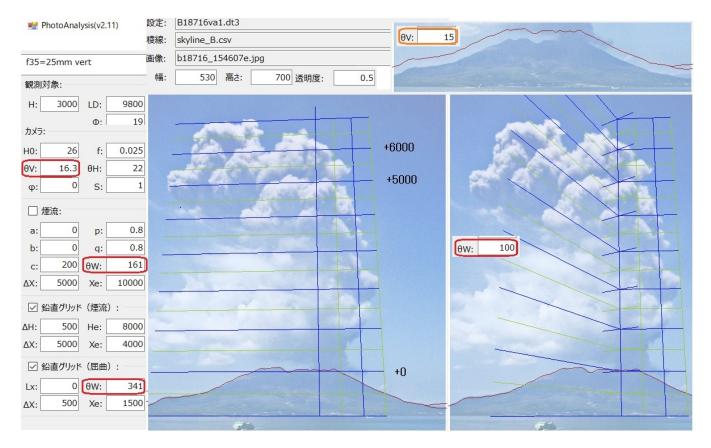
T <u>15</u>, 640×380 (上cut)



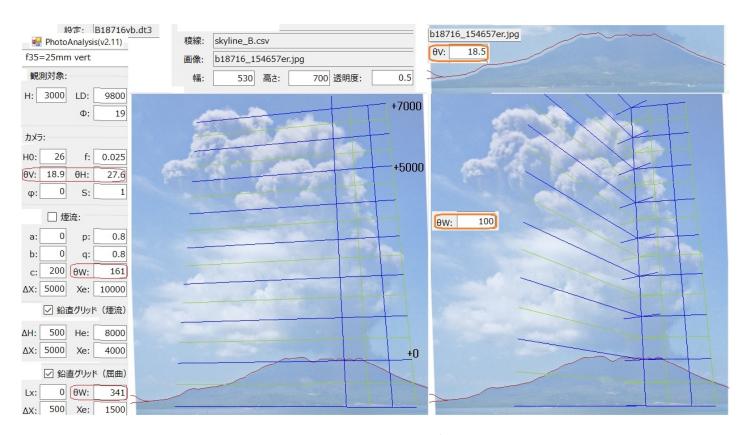
T <u>16d</u>

6-2. B点撮影の解析:煙流グリッドの風向依存性

B1では風向 θ W=161°の解析画面で画像の中央部を左に、 θ W=100°の場合を右に並べて比較する。屈曲グリッドは南岳火口方向に直交する θ W=341°として共通である。図の右上に、カメラの仰角を少し下げて、Skylineの形を確かめた結果を示す。B1の50秒後のB2も同様だが、カメラの向き θ V, θ Hが異なる。



B1 <u>15:46.07</u>



B2 15:46.57 = +50 sec. after B1

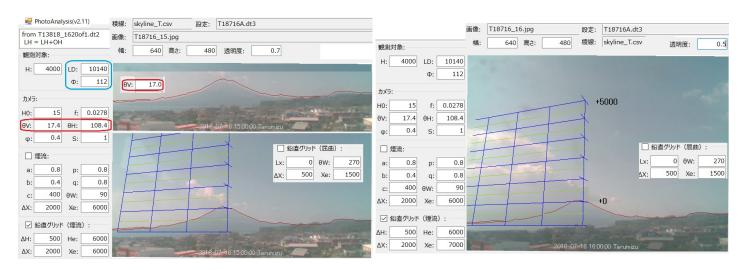
6-3. K, T の稜線checkと解析

錦江台Kと垂水TのWebCam画像サイズは640×480だが、6-1のT のように適宜cutして示す。Tについては原図のまま、または僅かな水平補正を済ませたもの(rotated= rで示す)を解析し、Kについては中央部600x300を解析し、その右下部分300x240を示す場合が多い。ここでは全部原図を解析し、稜線checkのK13, T15では下部を示す。視界の非常に良い時には、Kからは霧島連山が見え、checkの確認ができる。

16時の煙流グリッドは、Kでは θ W=100°、Tでは θ W=90°の場合を示す。



K <u>16</u>



T_15

B, K, T の結果を合わせて、リストにある南岳火口から流向Wは妥当と思われる。レーダの積算画像も西流を示している。他方、6-2の解析から見ると、噴煙高度4600mは過少評価と思われる。但し爆発22分後のT16では噴煙の最高部は画面の左外に流れ出ているため、B1,B2で最高部が西にずれている程度を推測するのは難しい。